

田中はじめ区川津後援会

励ます集いを開催

日本共産党川津後援会は5日、レインボープラザで、田中はじめ市議を励ます集いを開催しました。

最初に尾村県議が挨拶。その後、田中はじめ市議が挨拶をし、交流を行いました。

国会を閉じている場合か命とくらしを守る政治を

まず尾村県議は、「コロナ第3波が来る中、国会を閉じている場合ではない。コロナの犠牲者も、不況の犠牲者も出さない政治に、総選挙で切

参加者から要望が次々この声に応える市政を

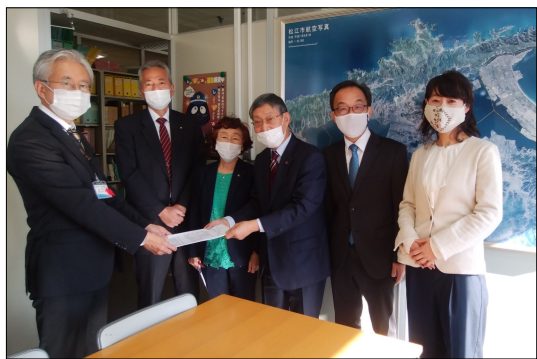
共同の力で聴く耳を持つ市政を

続いて田中市議は、「共産党市議団は、反対すべきものにはきっぱり反対すると同時に、他党派の皆さんとも一致点を探し、共同の力で要求実現に努力してきた」と述べ、最も印象に残る成果として、コロナの夏に間に合った、市内市立全学校のエアコン設置を紹介しました。

り替えよう」と訴えました。

参加者からは、原発問題、北道路問題、お金がなくてもかかれる医療の充実の問題、免許返納着の交通手段確保の問題、後期高齢者医療の問題など、次々と市政・県政への要望が出されました。特に原発問題では、尾村県議が、島根2号機をめぐる状況を報告し、再稼働を許さない闘いを

最後に田中市議が、「今日出された切実な願いを来春の市長選・市議選を通じて実現させよう」と呼びかけ、政治革新の決意を固めました。



予算要望を行う松江市議団・予定候補

市民の願い実現に向けて 2021年度予算要望書提出

党松江市委員会（橋祥朗委員長）

土木

- ◇国道432号の市道移管に当たり歩道等の整備
- ◇県道37号線の新津集会所前、橋の上に歩道の確保
- ◇道路センターライン、横断歩道表示のラインの明確化
- ◇比津トンネルの照明を明るく
- ◇堀川の水草除去作業の回数を増やして
- ◇携帯電話無線基地局設置業者に条例内容の徹底を

子育て・教育

- ◇保険料の未納者に対して、年金等の差し押さえの中止
- ◇産後ケア事業の拡充
- ◇保育園・小中学校の給食費無料化
- ◇保育士の処遇改善と1歳児の職員配置基準の改善
- ◇松江市管理の公園遊具の速やかな修理
- ◇放課後児童クラブの対象を6年生までに

福祉・市民生活

- ◇消費税増税による市民・小規模事業者の影響を調査し、消費税5%への引き下げを国に要請を
- ◇介護事業所での働く労働者の処遇改善を

産業振興

- ◇コロナ支援の継続、拡大
- ◇松江市経営支給給付金の継続
- ◇社会保険料減免制度の維持
- ◇誘致企業に実施している電気水道代・固定資産税補助を中小企業にも広げて
- ◇住宅・店舗リフォーム助成は、左官業や造園業など多職種の市内業者が参入できるように。木造住宅耐震工事の助成制度の拡充

市営住宅

- ◇老朽化対策やドアホーン、風呂の改修に引き続き取り組んで

国保

- ◇基金の取り崩しにより1世帯1万円の引き下げ
- ◇資格証明書は、機械的に発行しないこと

防災・まちづくり

- ◇福祉避難所も含め、感染症対策を施した避難所の設置
- ◇土砂災害・河川、ため池改修・地滑り対策等の予算増額を国・県に働きかけて

原発ゼロでこそ市内経済は大丈夫

世界銀行の融資対象から外れた原発産業。日立の原発は英国から撤退。もはや経営上も原発は過去の産業です。

野党が国会に共同提出している「原発ゼロ法案」は、立地自治体への支援を明記。

「原発ゼロで再生エネルギー振興」でこそ、市内経済は繁栄します。

田中はじめ

原発ゼロを求める市民の声を聞くべき

そこで次の議会まで、「了解はフクシマ事故前。市民の意見は変わったはず。事故後に市民の声を確認した事実はあるか」とただし、「していない」ことを確認しました。

松江の未来に関わる原発問題こそ「市民の声に聴く耳を持つ」べきです。

国政・市政を変え、原発ゼロの実現を！

総選挙と市長・市議選挙で政治を変え、原発ゼロの日本・松江を子ども達に渡しましよう。

市民と共に歩んで

原発のない21世紀の松江を子ども達に



初当選後、最初の議会で「原発ゼロを求める市民の声を聴くべきではないか」と市長にただしました。市長は「松江市は2009年にプルサーマル発電を了解している」と、市民の声は聞いたとの答弁でした。

「原発ゼロを求め、最初の議会で聴くべきではないか」と市長にただしました。市長は「松江市は2009年にプルサーマル発電を了解している」と、市民の声は聞いたとの答弁でした。

